Bulletin of Aichi Univ. of Education, 71（Educational Sciences）, pp. 166 − 174, March, 2022

# 教材の「見方・考え方」を生かす道徳教育への視点
# ―創作・実話教材の再構築による授業実践を例に―

佐藤 洋一 *　有田 弘樹 **

* 名誉教授

** 愛知県安城市立丈山小学校

# Perspectives on Moral Education that Make the Most of the "Views and Ways of Thinking" of Teaching Materials —Example of Lesson Practice by Reconstructing Creative and True Story Teaching Materials—

Yoichi SATO* and Hiroki ARITA**

*Professor Emeritus of Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

**Jyozan Primary School, Anjo 444-1221, Japan

## 一　「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」へ

### 1　道徳教育における歴史的課題から道徳科の設置へ

様々な立場，議論があるが，戦後の日本では「戦前・戦中の教育に対する拒否感のみが強調され，道徳教育は政治的なイデオロギー対立の争点とされることが常態化」「学校が，児童生徒に対する道徳教育の責任と役割」果たせず「『人格の完成』を目指す教育基本法の目的や学習指導要領の趣旨からも逸脱」「道徳教育の内容や指導方法についての議論は後景に追いやられ，道徳教育それ自体が（略）『政治問題』として論じられてきた」経緯があるとの見方がある（**注1**）。

また，道徳科の新設が提言されるに際し，従来の道徳教育の現状は「期待される姿には遠い状況」と指摘されている。具体的には「歴史的経緯に影響され，いまだに道徳教育そのものを忌避しがちな風潮」「道徳教育の理念が関係者に共有されていない」「教員の指導力が十分でなく，道徳の時間に何を学んだかが印象に残るものになっていない」「他教科に比べて軽んじられ，道徳の時間が，実際には他の教科に振り返られていることもある」等，道徳教育に対する「アレルギーともいうべき不信感や先入観が存在しており，そのことが道徳教育軽視の根源にある」とも述べられている（**注2，下線は稿者による，以下同じ**）。こうした道徳教育の現状を改善し，従来の「道徳の時間」が学校教育活動全体における道徳徳育の「要」としての役割を果たす（道徳教育の充実を図る）ため「特別の教科 道徳」の設置が提言された（**注3**）。

### 2　「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」，「考え，議論する道徳」への質的転換

新学習指導要領（「道徳」解説，**注3**）では，「読み物の登場人物の心情理解のみに偏った形式的な指導」「児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする授業」例があるとの課題を踏まえ，「多様な価値観の，時には対立がある場合を含めて，誠実にそれらの価値に向き合い，道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質」，子どもの発達段階に応じて，答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の子どもが自分自身の問題と捉え，向き合う「考え，議論する道徳」への質的転換が求められている。また，道徳教育の充実を図るため道徳科が教育課程に新たに位置づけられ，目標・内容・教材や評価，指導体制の在り方等が見直されるとともに，道徳科を「要」としながら道徳教育の趣旨を踏まえた効果的な指導がより確実に展開されるよう教育課程の改善も図られた。

## 二　資質・能力型教育と「特別の教科 道徳」

### 1　道徳教育・道徳科で求められる「資質・能力」

新学習指導要領（「総則」**注3**）では，道徳教育の目標が「教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき，自己の生き方を考え，主体的な

判断の下に行動し，自律した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」であり，道徳科が学校教育活動全体における道徳教育の「要」として位置づけられている。一方，道徳科の目標は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため，道徳的諸価値についての理解を基に，自己を見つめ，物事を（広い視野から）多面的･多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して，道徳的な判断力，心情，実践意欲と態度を育てる」とされている（括弧内は「中学校学習指導要領」の表記）。

これら二つの目標からは，道徳教育・道徳科を通じて育成すべき資質・能力は「自己の生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自律した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性」であり，人間としてよりよく生きようとする道徳性を構成する諸様相としての「道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度」を育てることであると捉えることができる。とりわけ，道徳科の目標においては，これら資質・能力を確実に育成するための「学習過程」が明確に位置づけられていることが，各教科等の目標とは大きく異なる特筆すべきポイントである。

### 2　育成すべき資質・能力と「三つの柱」の関係性とは

中央教育審議会「新しい時代に必要となる資質・能力の育成と，学習評価の充実」（「答申」･「改定案」，「告示」等）では，「どのように学ぶか」の項目で「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」が明記され，求められる資質・能力の育成に「質の高い理解を図るための学習過程の質的改善」が重視されている。

改定で目指すことは「子供の学びの過程を質的に高めていくこと」であり，そのためには「質の高い学びを目指す中で，教員には，指導方法を工夫して必要な知識・技能を教授」し「子供たちの思考を深めるために発言を促したり，気付いていない視点を提示したりするなど，学びに必要な指導の在り方を追求し（略）。着実な習得の学習が展開されてこそ，主体的・能動的な活用・探究の学習を展開することができる」と，教員における「習得・活用・探究」の過程での指導性，役割の在り方が改めて重視されていることは極めて重要である。学習者主体尊重という名目での必要な指導の欠如等，異なる無責任な放任との違いを区別した教育方法と評価，指導計画，指導力が求められている。

それでは，道徳教育･道徳科で育成するべき道徳性･道徳性を構成する諸様相と資質･能力「三つの柱」（「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」）はどのような関係性があるのか。

これ等の関係性については「人格そのものに働き掛け，道徳性を養うことを目的とする道徳教育の特質を考慮する必要がある」ことを踏まえ，「人間としてよりよく生きようとする道徳性」が「学びに向かう力，人間性等」の育成に深く関わるものとして位置づけられている。また，道徳科の目標で示された学習過程に着目すると，「道徳的諸価値の理解と自分自身に固有の選択基準・判断基準の形成」（「知識及び技能」）と「人間としての在り方生き方についての考え（思考）」（「思考力，判断力，表現力等」）という二つの要素が道徳性を養うための学習を支えるものとして位置づけられている。

道徳科授業は，「道徳的諸価値の意義及び大切さなどを理解すること」と「自己を見つめ，物事を多面的･多角的に考え，自己の（人間としての）生き方についての考えを深めること」という二つの要素が相互に関わり合い，深まり合うこと（習得･活用）によって，「自己の（人間としての）生き方を考え，主体的な判断の下に行動し，自律した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性」＝資質・能力としての「道徳性」を養うこと（探究）につながっていくと捉えることができる。

## 三　教科の本質に迫る「深い学び」「見方・考え方」

### 1　各教科を学ぶ本質的意義としての「見方・考え方」

学習過程を構想し子どもの主体性・能動性を引き出すためには各教科等の学習で「何を学ぶのか」の見直しと明確化が「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」とともに重要である。そのため，これからの時代に必要となる資質・能力を踏まえた「教科・科目等の新設や目標・内容の見直し（各教科等で育む資質・能力を明確化し目標や内容を構造的に示す）」がなされた。

具体的には「各教科等を学ぶ意義の明確化」「各教科等の学びの深まりの鍵となるのが『見方・考え方』」と述べられている。「見方・考え方」は「『どのような視点で物事を捉え，どのような考え方で思考していくのか』というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方」であり，「各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの」「教科等の学習と社会をつなぐもの」「習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて，より質の高い深い学びにつなげることが重要」とも述べられている（**注4**）。

### 2　道徳科で育てる資質・能力と「見方・考え方」

「道徳科における見方・考え方」を働かせるとは，児童生徒が学習の中で「様々な事象を，道徳的諸価値の理解を基に，自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方について考える」ことである（括弧内は中学校の表記，**注5**）。「道徳科における見方・考え方」は道徳科の目標における学習過程に着目した記載となっている。

この表記からは，道徳科を学ぶ本質的な意義や価値

が「道徳的諸価値の理解を基に」しながら「自己の（人間としての）生き方について考え」を深め，その方法（論）として「様々な事象」の中から道徳的な問題・課題を「自己との関わりで」捉えつつ「(広い視野から)多面的･多角的に考える」ことと解釈することはできる。

しかし「特別の教科」として教科書をベースとしながら扱うことが求められている教材の本質，その特質や構造，特有のテクスト形式への言及等を見ることはできない。これでは道徳的価値を含んだ道徳科の多様な教材，例えば伝記やノンフィクション，物語･小説，昔話･童話，随筆，演劇等の「見方・考え方」について抽出する観点を得ることはできないのではないか（**注5**）。

## 四　道徳科「見方・考え方」をいかした授業開発
## ―「テクスト形式」解明と「見方・考え方」―

### 1　教科・教材の本質としての「見方・考え方」

「深い学び」へのアプローチのためには，教材の特質･本質を踏まえた「見方・考え方」を明確にした授業構想が必要である。「見方・考え方」は教科・教材の本質を構成する「テクスト内容」（学問的な本質，魅力と背景）と「テクスト形式」（学問領域特有の方法論，戦略や方略・スキル）の二側面に着目し，抽出することが効果的である（注5・6）。これは，今回の学習指導要領で重視されている「道徳的諸価値の意義及びその大切さなどを理解すること」「自己を見つめ，物事を多面的・多角的に考え，自己の（人間としての）生き方について考えを深めること」「人間としてよりよく生きようとする道徳性」につながる視点である。

なお，本稿における「テクスト形式」とは，表層的･形式的な意味でのジャンルや文種別指導観（教材研究論）を超えた様々なテクスト情報の本質的・構造的な特質を意味するものであり，稿者はこれまでも国語科授業研究において具体的な授業・評価開発と提案を行ってきた（**注5・6**）。私見ではアレゴリー（寓話）やローファンタジー，伝承物語や近代小説，現代小説，随筆や伝記・ノンフィクション，記録等には独特のテクスト形式がある。今後は，多様なテクストがもつ本質的な構造や表現方法・文体（スタイル）の特質をいかした教材・授業研究，評価開発が必要になってくると思われる。

### 2　創作教材と実話教材における「テクスト内容･形式」

道徳科教材は，物語・小説，昔話・童話，生活文等の「創作教材」と伝記･ノンフィクション，ニュース，記録文等の「実話教材」に大きく類別して捉えることができる（**注7**）。以下，道徳科における創作・実話教材の「テクスト内容･形式」について概要を述べる。

(1) 創作教材における「テクスト内容・形式」

テクスト内容　子どもにとって身近な事件・出来事であることが多いため，自己の生活経験（行為・行動等）と関わらせながら道徳的価値について考えることができる(「自分が○○さんだったら，どうするか」,「○○さんはどうしたらよかったのか」等)。

テクスト形式　中心人物がある出来事を通して，冒頭と結末で心情や発想・認識，行為・行動等を変容させるため，その結果を生み出した心，変化・変容等を引き起こした心について考えることができる（「どうして○○することができたのか」,「○○したときにどんなことを思ったのか」等)。

(2) 実話教材における「テクスト形式・内容」

テクスト内容　偉人・有名人等にまつわる事実や記録に基づいた内容であることが多いため，成果を上げることのすばらしさや見習うべきこと（道徳的価値）等を考えることができる（「○○さんははじめから△△することができたのか」,「○○さんのこれまでの道のりをたどってみよう」等)。

テクスト形式　偉人・有名人等が複数の事件・出来事を通して，夢や目標を達成できるようになるため，挫折や困難等を乗り越えるためのレジリエンスやマインドセットについて考えることができる（「どうして○○さんは△△を乗り越えることができたのか」,「この先○○さんはどうなっていくと考えられるか」等，**注8**)。

### 3 「見方・考え方」をいかした授業開発のポイント

教材の「見方・考え方」を生かし児童生徒が授業の中で「道徳科における見方・考え方」を働かせる，いわゆる質の高い深い学び（資質・能力型授業）を構想するためには何をどうすればよいか。本実践研究では道徳科授業開発のポイントを以下の四項目に整理した。

(1) 指導すべき道徳的価値（内容項目）の理解を基に，本時のねらい（道徳性）を明確に設定する。

子どもに道徳性を養うため，道徳科授業では「内容項目」に含まれる「道徳的価値」について指導することが求められる。内容項目とは児童生徒が「人間として他者とよりよく生きてく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を，短い言葉で平易に表現したもの」，子ども自らが「道徳性を養うための手掛かりとなるもの」である（**注9**）。また，内容項目は四つの視点（「A主として自分自身に関すること」,「B主として人との関わりに関すること」,「C主として集団や社会との関わりに関すること」,「D主として生命や自然，崇高なものとの関わりに関すること」）から整理・分類されており，小学校低学年は19項目，中学年は20項目，高学年は22項目，中学校は22項目にまとめられている。そのため，子どもに考えさせたい道徳的価値（内容項目）についての理解を深め，児童生徒の学習状況や実態と課題，教材の「見方・考え方」をいかしつつ本時のねらい（道徳性）を明確に設定する必要がある。

(2)「テクスト形式」(内容・形式) を踏まえて教材がもつ「見方・考え方」を明確にする

「創作教材」や「実話教材」のテクスト形式(内容・形式)を踏まえて道徳科教材の「見方・考え方」を明確にする(詳細は「1」「2」を参照)。例えば「なぜ○○が大切なのか」「○○を実現するためにはどうすればよいのか」等といった「道徳的価値の理解」「○○できた(できなかった)ときにどんなことを思ったのか」「どうして○○を乗り越えることができたのか」といった「自己の(人間としての)生き方についての考え(思考)」を深める学習につなげることができる。

(3)「習得・活用」から「探究」への学習過程の構想

子どもが授業の中で「道徳科における見方・考え方」を働かせながら「人間としてよりよく生きようとする道徳性」を高める資質・能力型授業(質の高い深い学び)を実現するためには,以下のような「習得・活用・探究」を踏まえた学習過程を構想する必要がある。①〈導入(習得):課題を発見する〉道徳的価値の意義や大切さを基にしながら,道徳的な問題や課題を発見する。②〈展開(活用):道徳的価値についての考えを深める〉教材の「見方・考え方」をいかし,道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止め,道徳的価値について(広い視野から)多面的・多角的に考え,深める。③〈終末(習得):課題を解決する〉②を通して,①の道徳的な問題や課題を解決する。自己の(人間としての)生き方についての考えを深めるとともに,道徳的価値の意義や大切さの理解も深める。④〈振り返り(探究):よりよく生きるための態度・価値観を再構築する〉今後の自己の(人間としての)生き方についての考えを確かなものにするとともに,人間としてよりよく生きようとする道徳性(態度・価値観)を高める。

①教材の「見方・考え方」をいかして中心発問(主発問),補助発問(問い返し)を構想する

本時のねらい(道徳性)を確実に達成させるためには,〈展開(活用)〉の段階において教材の「見方・考え方」をいかした「中心発問」(主発問)と「補助発問」(問い返し)を構想する必要がある。道徳的価値に関わる事象を自分自身の問題として受け止めるための中心発問は「テクスト内容」としての価値の側面から,道徳的価値について(広い視野から)多面的・多角的に考えをもち深めるための補助発問は「テクスト形式」としての価値の側面から構想すると効果的である。

②①を踏まえて〈導入:課題発見〉,〈終末:課題解決〉を構想する。

ねらいとする道徳的価値についての課題発見・解決する学習を実現するためには,中心発問と補助発問を踏まえた〈導入(習得):課題発見〉と〈終末(習得):課題解決〉を効果的に位置づける必要がある。例えば,道徳的価値を実現することのよさについて考えをもち深める展開であれば,「なぜ○○は大切なのだろう」→「(大切なことは理解できるが)どうして○○ができないのだろう」(導入),「○○ができると,どんなよさがあるのだろう」(終末)といった〈導入〉と〈終末〉の段階を構想できる。また,〈導入〉と〈結末〉の段階で発問を統一することで,子どもがもつ道徳的価値観の変化・変容を見取ることも可能である。

(4) 学習過程を踏まえて板書を構造的に計画する

全員の子どもたちが本時のねらいを達成できるようにするためには,板書を構造的に計画する必要がある。板書は子どもにとって思考を深める手がかりとなる。そのため,黒板を三つに分けて板書することで〈導入〉から〈終末〉までの学習過程を視覚的に理解させることができる。また,〈展開〉の段階では,立場(考え)の違いを対比させながら示したり,ねらいとする道徳的価値レベルの違いを整理しながら示したりすると考えを深めるために有効である。

## 五 教材の「見方・考え方」をいかした授業実践(概要)―創作教材と実話教材を活用して―

### 1 創作教材を活用した道徳科授業開発(小学四年)

(1) 主題名　「正直な心で」 内容項目:A-(2) 正直,誠実

(2) 教材名・出典　「『正直』五十円分」(『道徳4きみがいちばんひかるとき』光村図書)

(3) 本時のねらい

正直に行動すると自分の心も相手の心も気持ちよくなることに気づき,うそやごまかしをせずに明るい心で伸び伸びと過ごしていこうとする態度を育てる。

(4) 主題設定の理由

①ねらいとする道徳的価値―内容項目の意義・価値―

「正直,誠実」(A-(2))は偽りなく真面目に真心を込め明るい心で楽しく生活することに関する内容項目である。小学校低学年では「うそをついたりごまかしをしたりしないで,素直に伸び伸びと生活すること」,中学年では「過ちは素直に改め,正直に明るい心で生活すること」,高学年では「誠実に,明るい心で生活すること」,そして中学校では「自律の精神を重んじ,自主的に考え,判断し,誠実に実行してその結果に責任をもつこと」(「自主,自律,自由と責任」)が強調されている(注3)。

子どもが自分らしさを発揮できるようにするためには自分の気持ちにうそや偽り,ごまかしのないようにすることが求められる。誰にでも失敗や過ちは起こり得ることであるが自分が責められたり不利な立場になることを回避したりすることがある。しかし,うそを言ったりごまかしをしたりすることは一時しのぎに過ぎず,結果的に他者からの信頼を失うばかりでなく,自分の中に後悔や罪悪感,自責の念,良心の呵責を生

じさせることにつながる。

そのため，小学校低・中学年段階では失敗や過ちを認め改めようとする「素直さ」とともに，うそやごまかし等をすることなく人としてやるべきことをやろうとする「正直」な態度を育成することが求められる。さらに，小学校高学年・中学校段階では，周囲の判断に左右されることなく，正しいと判断したことに責任をもって行動しようとする「誠実」な生き方を実行できるようにすることが求められる（**注9**）。

②児童の実態と課題―何をどう伸ばしていきたいか―

本学級の児童は失敗や過ちを素直に認めて前向きに改めていこうとする姿が見られ，相手に対してうそをついたりごまかしたりすることはよくないことであると考え生活する児童の姿も多く見られる。しかし，「なぜ，うそやごまかしはよくないことなのか」「正直に行動するためには，どんな考え方を大切にすればよいのか」等，正直でいることのよさや快適さ，正直になるための心の在り方について無自覚な児童も少なくない。本実践を通して正直に行動すると相手の心も自分の心も気持ちよくなることを自覚させ，失敗や過ちがあってもうそやごまかしをすることなく，明るい心で伸び伸びと過ごしていこうとする態度を育てていきたい。

③教材の「見方・考え方」とは―テクスト形式の解明―

創作教材「『正直』五十円分」はおつり（50円）を多くもらったたけしが，店に返しに行くか迷いながらも正直に返すことを決心し，結果的には店主のおっちゃん，弟のひろし，たけし自身も正直に行動することのできた気持ちに喜ぶという話である。おつりを多くもらったたけしがおつりを返しに行くかどうか迷う場面（心情）は，児童にとっては「自分だったらどうするか」を考えながら読むことができるだろう（テクスト内容）。また，たけしがおつりを返すことを決心する場面（心情）は，児童にとっては「正直」という道徳的価値について考えを深めるきっかけとなるだろう（テクスト形式）。

(4) 学習過程―習得・活用から探究へ―（資料1）

(5) 創作教材を活用した授業の実際（資料2・3）

2　実話教材を活用した道徳科授業開発（小学四年）

(1) 主題名　「目標に向かって」 内容項目：A-(5) 希望と勇気，努力と強い意志

(2) 教材名・出典　「より遠くへ―谷真海」（『道徳4 きみがいちばんひかるとき』光村図書）

(3) 本時のねらい

「自分に負けたくない，諦めたくない」という強い意志や信念があれば諦めずに努力できることに気づき，自分の夢や目標に向かって粘り強くやり抜く強い意志をもとうとする態度を育てる。

(4) 主題設定の理由

①ねらいとする道徳的価値―内容項目の意義・価値―

「希望と勇気，努力と強い意志」（A-(5)）は，自分の目標をもち勤勉にくじけず努力し，自分を向上させることに関する内容項目である。小学校低学年では「自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと」，中学年では「自分でやろうと決めた目標に向かって，強い意志をもち，粘り強くやり抜くこと」，高学年では「より高い目標を立て，希望と勇気をもち，困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くこと」，そして中学校では「より高い目標を設定し，その達成を目指し，希望と勇気をもち，困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げること」（「希望と勇気，克己と強い意志」）が強調されている（**注1**）。

児童が一人の人間としてよりよく生きていくためには自分の夢や希望，目標をもち達成に向けて粘り強く努力しやるべきことはやり抜く忍耐力を養うことが求められる。しかし，目標に向かい取り組む中で失敗や困難はつきものであり，そのような状況でも自分の目標の達成に向かい勇気をもって困難や失敗を乗り越え，努力しようとする態度を育成することが重要である。

小学校低学年では自分の身近な勉強や仕事が向き合う対象となっている。中学年では自分がやらなければならないことや自分でやろうと決めた目標が，そして高学年・中学校では自分の理想とする姿や自分の向上のために決めた高次の目標が対象となっている（**注9**）。

②児童の実態と課題―何をどう伸ばしていきたいか―

本学級の児童は自分の好きなことに対しては自分で目標を立て取り組もうとする姿が見られる。自分の苦手なことに対しても，強い意志をもち最後までやり抜こうとする児童も一部見られる。しかし目標を立てることはできても最後までやり抜くことができなかったりつらいことや苦手なことはすぐに諦めてしまう児童も少なくない。本実践を通して自分で決めた目標に対して気持ちに負けたくない，もっとよりよい自分に出会いたいという強い思いや意志があれば粘り強く努力し続けられることに気づかせたい。そして，自分の夢や希望，目標に向かって最後まで諦めずにやり抜く強い意志をもとうとする態度を育てていきたい。

③教材の「見方・考え方」とは―テクスト形式の解明―

実話教材「より遠くへ―谷真海」は，病気によって右足膝下を切断した谷真海氏が「大切なものは失ったものではなく，わたしがもっているものだ」と気づくことで，走り幅跳びに挑戦し，パラリンピックへの出場をも果たせるようになるという話である。幾度となく挫折や困難に直面しながらも，成果を上げていく谷真海氏の姿に，児童はすばらしさを感じたり見習うべきことを考えたりしながら読むことができるだろう（テクスト内容）。また，目標に向かって諦めることなく，粘り強くやり抜く強い意志をもつことのできた谷真海氏の心情は，児童にとって「努力」「強い意志」

という道徳的価値について考えを深めるきっかけとなるだろう（テクスト形式）。

(4) 学習過程―習得・活用から探究へ―（資料4）

(5) 創作教材を活用した授業の実際（資料5・6）

## 六　資質・能力育成からの道徳教育への視点

資質・能力型教育に転換した新学習指導要領では，求められる資質・能力を「三つの柱」に整理し「主体的・対話的で深い学び」の実現とともに「各教科等を学ぶ意義の明確化」「学びの深まりの鍵となる」「見方・考え方」が重視されたことは周知のことである（**注3**）。

これまで道徳教育の領域で子どもにとってリアルで価値ある発問や問いを持たせる授業づくりの側からの教材研究論や学習形態論は見られるし，「道徳的な価値」（見方・考え方）の内容的項目への言及，様々な指導法研究も行われてきている（**注7・9**）。

しかし，教材・情報の本質的特質や価値（いわゆる「見方・考え方」「テクスト形式」）をどういう観点でとらえ，どう生かし評価するのか。子どもたちは何をどう議論し（議論の判断・評価，調整能力），何ができるようになればいいのか（態度や価値観形成に関わる論述力やプレゼンテーション能力，到達目標の解釈と生かし方）。こうした情報・テクスト形式に着目した教材研究からの授業研究提案，評価研究の理論的研究や実践は管見の範囲では極めて少ない。道徳教育に限らないが，「道徳的判断力，道徳的心情，道徳的実践意欲と態度」（**注1**）を育てること，子ども個々に「学びの深さ」と多様性を保証するためには確かな教材研究が不可欠である。

本稿はこうした課題意識から，教材という情報・テクスト形式の「見方・考え方」を生かす道徳教育開発への視点を，いわゆる「創作・実話教材」の再構築による授業実践を例に論じたものである。

〈付　記〉

本稿の資質・能力論と「見方・考え方」，テクスト形式研究等に関する理論的な部分は，佐藤洋一研究発表「資質・能力（コンピテンシー）を深める国語科言語能力・テクスト形式」（第132回全国大学国語教育学会・岩手大会，2017年5月27日岩手大学学生センターA棟）と注記4・6の論考による。道徳科授業開発と実践・検証は有田弘樹研究発表「教材の『見方・考え方』を生かした道徳科授業開発―物語教材とノンフィクション教材の実践を例に―」（日本教材学会「東海・近畿・北陸支部研究会」，2021年3月13日東海学園大学名古屋キャンパス），実践は安城市立丈山小学校で2020年に行ったものである。

本稿の趣旨から「『正直』五十円分」と「より遠くへ―谷真海」の授業概要と開発学習シート等の一部のみを掲載した。誌面の関係もあり児童の詳細な学びの実態と考察等については別項を期したい（佐藤は全体の監修と1～3・6頁を，有田は4～9頁を執筆した）。

〈注記・主要文献〉


1　貝塚茂樹『新時代の道徳教育』（ミネルヴァ書房2020年），日本道徳教育学会編『新道徳教育全集第1巻 道徳教育の変遷・展開・展望』（学文社2021年）。

2　道徳教育の充実に関する懇談会「今後の道徳教育の改善・充実方策について（報告）」（2013年12月）

3　文部科学省『小学校学習指導要領解説総則編』（2018年），同『同解説特別の教科 道徳編』（同年）。

4　佐藤洋一「国語教育は資質・能力型教育に対応できるか」『「楽しく深い学び」を創る国語科授業研究会紀要3号』（同研究会編著2020年），佐藤洋一・加藤洋佑「創造的な『課題発見・解決能力』を育てる探究型国語科学習」『名古屋学芸大学研究紀要教養・学際編第16号』（2020年），同・有田弘樹「資質・能力を育て『深い学び』につながるカリキュラム・マネジメント」『同大学ヒューマンケア学部紀要第12号』（2019年）。

5　中央教育審議会「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（2016年12月）。

6　佐藤洋一「資質・能力を育てる『言葉による見方・考え方』―テクスト内容と形式への評価，批評の観点から―」『国語教育2018年2月号』（明治図書），同・有田弘樹「『創造的・論理的思考』を鍛える21世紀型教育―『故郷』におけるパフォーマンス評価・メタ認知―」『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要第2号』（2017年），同・左近妙子「資質・能力を育てる国語科カリキュラム・マネジメント」『名古屋学芸大学研究紀要教養・学際編第15号』（2019年）等。

7　永田繁雄「教材のタイプを意識して授業を仕組む」『道徳教育2016年9月号』（明治図書），同「教材と子どもとの『近さ』『遠さ』を生かし合う」『同2016年8月号』（同），同編著『平成28年度版小学校新学習指導要領の展開 特別の教科 道徳編』（同2016年），加藤宣行『考え，議論する道徳に変える教材研究＆授業構想の鉄則35』（同2020年），同『考え，議論する道徳に変える指導の鉄則50』（同2017年）等。

8　キャロル・S・ドゥエック著今西康子訳『マインドセット』（2016年草思社），経済協力開発機構（OECD）編著『社会情動的スキル』（明石書店2018年）。

9　田沼茂紀編著『道徳科　重要用語事典』（明治図書2021年），日本道徳教育学会編『新道徳教育全

集 第２～５巻』（学文社2021年），赤堀博行『道
徳的価値の見方・考え方』（東洋館出版社2021年）。

（2021年９月24日受理）

## 第４学年○組　　道徳科学習指導案

指導者　有　田　弘　樹

1　主題名　正直な心で　【A－(2)】正直、誠実　（1／1）
2　教材名　「『正直』五十円分」（『道徳４ きみがいちばんひかるとき』光村図書）

（1）本時の目標（ねらい）

正直に行動すると、自分の心も相手の心も気持ちよくなることに気づき、うそやごまかしをせずに明るい心で伸び伸びと過ごしていこうとする態度を育てる。

（2）本時の学習過程（◎学びを深めるための手立て　○個への支援）

| | 学　習　活　動 | 教　師　の　支　援 |
|---|---|---|
| 導入 | **1　正直に行動するために大切なことを考える。**<br>「正直に行動する」ためには、どのような考え方が大切なのだろう。<br>・自分にうそをつかないようにする。<br>・あとのことを考えてから行動する。 | ・正直に行動できなかったことを問うことで、主題を身近に感じられるようにする。<br>・正直に行動するためにはどうすればよいかを問うことで、主題に問題意識をもてるようにする。 |
| 展開 | **2　教材の範読を聞いて、中心発問について話し合う。**<br>自分がたけしさんだったら、おつりを返しに行きますか。行きませんか。<br><行く><br>・本当のおつりではないから。<br>・おっちゃんに申し訳ないから。<br>・ずっとモヤモヤが残ってしまうから。<br><行かない><br>・せっかく多くもらったから。<br>・多くもらって得するから。<br>・おっちゃんは分からないから。<br>**3　補助発問について考え、話し合う。**<br>たけしさんがおつりを返しに行くことを決めたのはどうしてだろう。<br>・（自分が）うそつきになってしまうから。<br>・（相手が）困ってしまうから。悲しんでしまうから。<br>・（自分も相手も）二人にとって、いつまでも悲しい思い出になってしまうと思ったから。 | ・たけしの葛藤について考える場を設けることで、自分に正直になれなかったりなりたくてもできなかったりする思いに共感できるようにする。<br>・中心発問について、ワークシートに自分の考えを記述できるようにすることで、立場や考えを明確にして聴き合いに参加できるようにする。<br>○自分の考えをもつことが苦手な児童に対しては、自分で立場を選び決められるだけでもよいことを伝える。<br>◎補助発問をすることで、迷っていたたけしが自分のことや相手のことを考えながら正直に行動できたことに気づけるようにする。<br>○正直に行動する価値レベルの違いを視覚的に板書することで、道徳的価値の理解を深められるようにする。 |
| まとめ | **4　改めて正直に行動するために大切なことを考える。**<br>・正直になったら、自分の心はすっきりするし、相手の心も気持ちよくさせられると考える。<br>・正直になったら、自分にとっても、相手にとっても心がうれしくなれると考える。 | ◎正直に行動するためにはどうすればよいかを改めて問うことで、最初に捉えた「正直」の価値を踏まえつつ、自分にとっても相手にとっても正直に行動することが大切であることに気づけるようにする。 |
| 振り返り | **5　振り返りをしよう**<br>・正直になれないと自分の心にうそをつくことになるし、相手にも迷惑をかけてしまうことがわかった。これからは、自分のためにも相手のためにも、自分の心に正直に過ごしていきたい。 | ・新しい価値に気づけた児童、学んだことを生活につなげた児童を意図的に指名することで、明るい心で伸び伸びと「正直」に過ごしていこうとする心情をより高められるようにする。 |

（3）本時の評価

正直に行動すると、自分の心も相手の心も気持ちよくなることに気づき、うそやごまかしをせずに明るい心で伸び伸びと過ごしていこうとする態度を育てることができたか、聴き合いの様子やワークシートの記述から判断する。

資料１「創作教材」を活用した学習過程―「習得・活用」から「探究」へ―

９月２９日（火）　　きょ手＿＿＿＿回
道徳１４回目　「正直」について考えよう

## 「正直」五十円分

①「正直」って何だろう？　→　ウソをつかないこと　ごまかさないこと　素直になること
②　正直に行動するためには、どんな考え方が大切なのだろう？
③　それでは、自分の都合が悪くなったとしても、正直になれるんですね？
⇒「正直」に行動するために大切な心を、みんなで話し合い、考えを深めていきましょう。

①　たけしさんはおつりが少なかったとき、「正直」にすぐに言えた？言えなかった？
②　たけしさんはおつりが多かったときには、「正直」にすぐに言えた？言えなかった？

1　自分が「たけしさん」だったら、おつりを返しに行きますか？

| 行　く | 行かない |
|---|---|
| 理由 | |
| | |
| | |

補助発問　どうして、「たけしさん」はおつりを返しに行くことに決めたのだろう？

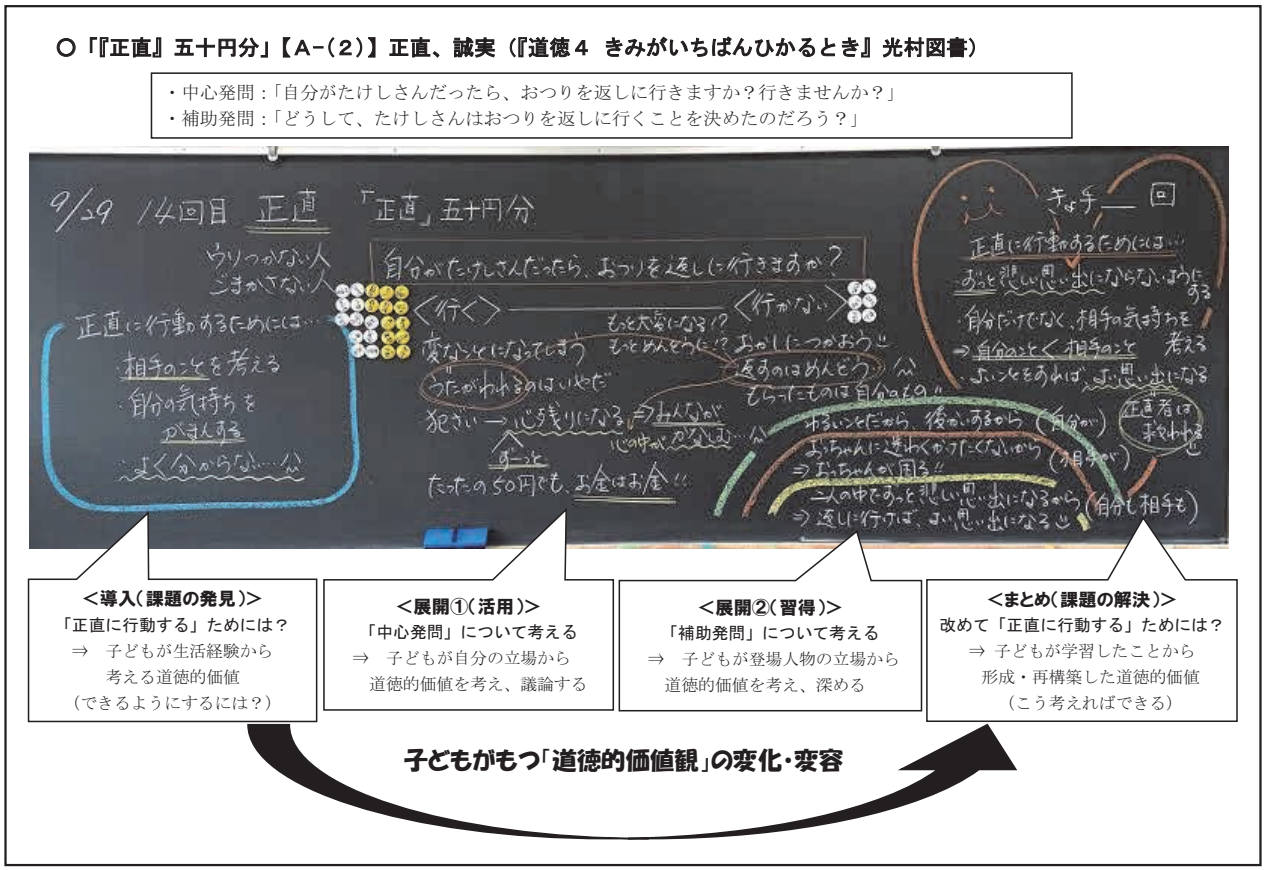
①　（自分が）　　ずっとモヤモヤするから　ウソつきになりたくないから
②　（おっちゃんが）困るから　悲しむから　いやな思いをするから
③　（自分も相手も）いつまでも悲しい思い出になってしまうから
③　→　もしおつりを返しに行かなかったら、「たこやき」を見たとき、たけしさんやおっちゃんはどう思うだろう？
⇒ 二人とも悲しい気持ちになる。たけし：うそついた自分がいや。おっちゃん：悲しませた自分がいや。
③　→　逆に、おつりを返しに行っていたら、たけしやおっちゃんはどう思うのだろう？
⇒ 二人とも気持ちよくなれる。たけし：素直になれてよかった。おっちゃん：教えてもらってよかった。

2　改めて、正直に行動するためには、どのような考え方が大切なのだろう？

3　今日の道徳の授業をふり返ろう。
（授業で学んだこと、友達の考えから学んだこと、これからの生活にいかそうと思ったこと、など）

**４年　　組（　　）番　名前（　　）**

資料２ 創作教材の「見方・考え方」をいかす学習シート
―「道徳的価値の理解」を基に「自己の（人間としての）生き方についての考え（思考）」から「道徳性」の育成へ―




資料３　学習過程を踏まえた構造的な板書の実際

第４学年○組　道徳科学習指導案

指導者　有　田　弘　樹

1　主題名　目標に向かって　【A－（5）】希望と勇気、努力と強い意志　（1／1）

2　教材名　「より遠くへ」（『道徳4 きみがいちばんひかるとき』光村図書）

（1）本時の目標（ねらい）

自分の気持ちに負けたくない、あきらめたくないという強い思いや意志があれば諦めずに努力できることに気づき、自分の夢や目標に向かって粘り強くやり抜く強い意志をもとうとする態度を育てる。

（2）本時の学習過程（◎学びを深めるための手立て　○個への支援）

| | 学　習　活　動 | 教　師　の　支　援 |
|---|---|---|
| 導入 | **1　あきらめずに努力するために大切なことを考える。**<br>目標に向かってあきらめずにがんばるためには、どのような考え力がもてればよいのだろう。<br>・楽しみながら取り組んでいく。<br>・とにかく毎日がんばればよい。 | ・自分の目標を途中であきらめてしまった経験を問うことで、主題を身近に感じられるようにする。<br>・あきらめずに努力するためにはどうすればよいかを問うことで、主題に問題意識をもてるようにする。 |
| 展開 | **2　教材の範読を聞いて、中心発問について話し合う。**<br>谷真海さんが大きな夢をかなえるまでの道のりをいっしょに見ていきましょう。<br>・病気で右足を切断してしまったから、下がると思う。<br>・スポーツができると思えたから、少し上がると思う。<br>・不安や悲しみが出てきたから、また下がると思う。<br>・臼井さんのおかげで救れたから、ぐんと上がると思う。<br>・病気で右足を切断してしまう前よりも、目標を立てて進んでいけているから、もっともっと上がっていくと思う。 | ・谷真海氏は、初めからパラリンピック選手になれたのかを問うことで、初めからパラリンピック選手になれたわけでなく、幾度となくおとずれる挫折や困難を乗り越えた結果であることに気づけるようにする。<br>○谷真海氏の「努力」する心情を直線や曲線で板書することで、谷真海氏が「努力」する過程やレベルを視覚的に理解できるようにするとともに、「努力」する背景にある思いも考えられるようにする。<br>◎補助発問をすることで、谷真海氏は自分にできることに目を向けたり、より良い自分に出会いたいと思えたりしたから諦めずに努力することができたということに気づけるようにする。<br>○正直に行動する価値レベルの違いを視覚的に板書することで、道徳的価値の理解を深められるようにする。 |
| | **3　補助発問について考え、話し合う。**<br>谷真海さんがあきらめることなく、努力することができたのは、どうしてなのだろう。<br>・(小) 自信がもてたから。可能性が見えたから。<br>・(中) 自分ができることに目を向けられたから。<br>・(大) あきらめずにもっと上を目指していきたいと思えたから。より良い自分に出会いたいと思えたから。 | |
| まとめ | **4　改めてあきらめずに努力するために大切なことを考える。**<br>・今の自分を受け止めながら、前に進んでいこう、進んでいきたいと考える。<br>・より良い自分の姿をイメージしながら、それをはげみにしてがんばっていこうと考える。 | ◎あきらめずに努力するためにはどうすればよいかを改めて問うことで、最初に捉えた「正直」の価値を踏まえつつ、「自分の気持ちに負けたくない、より良い自分に出会いたいという思いをもつことが大切である」ということに気づけるようにする。 |
| 振り返り | **5　振り返りをしよう**<br>・変わらない気持ちがあったら夢や目標を実現できることがわかった。目標を実現することは難しいことだけれど、これからは、自分の気持ちに負けずに、いっぱい努力して、成功させられるようにしたい。 | ・新しい価値に気づけた児童、学んだことを生活につなげた児童を意図的に指名することで、自分の夢や目標に向かって粘り強くやり抜く強い意志をもとうとする心情を高められるようにする。 |

（3）本時の評価

自分の気持ちに負けたくない、あきらめたくないという強い思いや意志があれば諦めずに努力できることに気づき、自分の夢や目標に向かって粘り強くやり抜く強い意志をもとうとする態度を育てることができたか、聴き合いの様子やワークシートの記述から判断する。

資料４　「実話教材」を活用した学習過程―「習得・活用」から「探究」へ―

1月24日（水）　きょ手＿＿＿＿回

道徳27回目　「努力」について考えよう

# より遠くへ一谷 真海

①「努力」って、何ですか？
②「自分は『努力』しているよ」という人は、どれくらいいますか？
③ 途中であきらめてしまったことはありませんか？
④ どうすれば、あきらめずに努力できるのだと思いますか？

1　谷真海さんは初めからパラリンピック選手になれる才能をもっていたんですよね？
2　初めからではない？ それでは、いつから才能をもてたといえるのですか？ ⇒ わからない…。
3　谷真海さんが、大きな夢をかなえるまでの道のりを一緒に見ていきましょう。
・この後どうなりますか？　病気で足を切ってしまうから…ものすごく下がると思う。
・この後どうなりますか？　またスポーツができると信じられるから…ちょっと上がると思う。
・この先はどうなるかな？　ふだんの生活にもどるけど、不安や悲しみが出てくるから…下がる。
（「大切なのは、失ったものではなくもっているもの」と気付いて）
右足を切る前よりも目標を立てて進んでいくから…上がると思う。
・足を切る前ぐらいまで上がってきたね。ここでやめておきますか？もっと上がりますか？

1　どうして、谷真海さんはあきらめずに努力することができたのだろう。

① (小) 自信がもてたから。可能性が見えたから。
② (中) 自分ができることに目を向けることができたから。
③ (大) 自分の気持ちに負けず、もっと上を目指していきたいと思えたから。
もっとがんばることで、よりよい自分に出会いたいと思えたから。

2　改めて、目標に向かってあきらめずに努力するためには、どんな考え方をもてればよいのだろう。

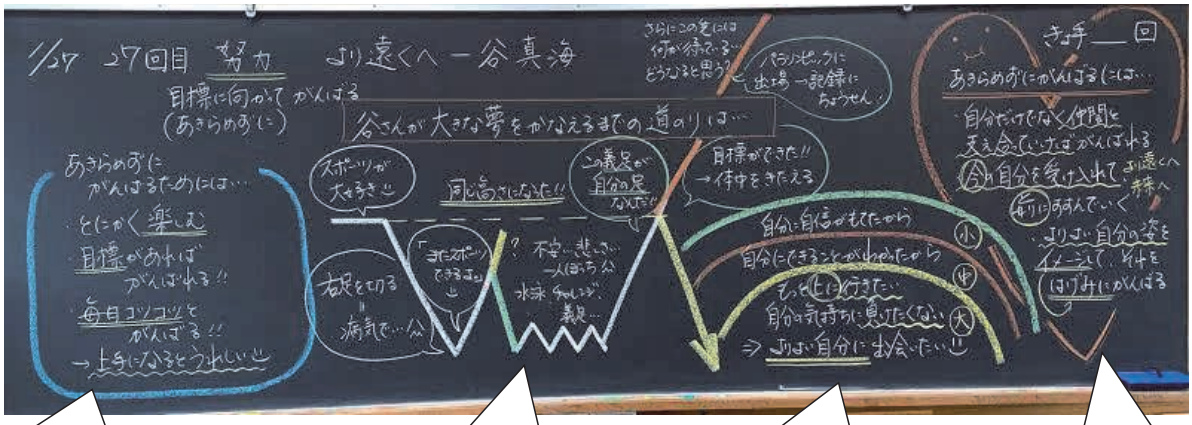
3　今日の道徳の授業をふり返ろう。
（授業で学んだこと、友達の考えから学んだこと、これからの生活にいかそうと思ったこと、など）

4年（　）組（　）番　名前（　　）

資料５　実話教材の「見方・考え方」をいかす学習シート
―「道徳的価値の理解」を基に「自己の（人間としての）生き方についての考え（思考）」から「道徳性」の育成へ―

**○「より遠くへ一谷 真海」【A-(5)】希望と勇気、努力と強い意志（『道徳４ きみがいちばんひかるとき』光村図書）**

・中心発問：「谷 真海さんが大きな夢をかなえるまでの道のりをいっしょに見ていきましょう。」
・補助発問：「どうして、谷 真海さんはあきらめることなく、努力することができたのだろう？」




**<導入(課題の発見)>**
「あきらめずにがんばる」ためには？
⇒　子どもが生活経験から考える道徳的価値
（できるようにするには？）

**<展開①(活用)>**
「中心発問」について考える
⇒　子どもが自分の立場から道徳的価値を考え、議論する

**<展開②(習得)>**
「補助発問」について考える
⇒　子どもが登場人物の立場から道徳的価値を考え、深める

**<まとめ(課題の解決)>**
改めて「あきらめずにがんばる」ためには？
⇒ 子どもが学習したことから再構築した道徳的価値

**子どもがもつ「道徳的価値観」の変化・変容**

資料６　学習過程を踏まえた構造的な板書の実際